

英国の大学施設に係る
施策の動向及び学修環境等に関する
実態調査報告

文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室

目次

1. 調査概要	2
2. 政府機関における施策の動向	3
3. 各大学における教育研究環境の状況	7

1. 調査概要

◆目的

英国の大学施設に係る施策の動向及び学修環境等に関する調査

◆日程

平成28年1月18日(月)～1月22日(金)

◆主な調査事項

- ・英国の大学施設に係る施策の動向
- ・英国の大学における先進的な教育研究環境の状況

◆訪問先

政府機関(ビジネス・イノベーション・技能省(BIS)、高等教育財政カウンシル(HEFCE))
大学(ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン、キングス・カレッジ・ロンドン、
ウォーリック大学、マンチェスター大学、シェフィールド大学)

◆調査者

森 政之 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課整備計画室長
野口 公伸 文部科学省大臣官房文教施設企画部計画課企画調査係長
上野 武 千葉大学キャンパス整備計画室長／工学部建築学科教授

※上野教授は、各大学の調査のみ参加。また、平成28年度委託事業の受託機関から担当者が参加。

2

2. 政府機関における施策の動向

◆訪問期間

平成28年1月18日(月)

◆訪問先

- ・ビジネス・イノベーション・技能省(BIS)
- ・高等教育財政カウンシル(HEFCE)

◆調査事項

英国の大学施設に係る施策の動向
(大学施設関連予算の状況を含む)

◆聴取した内容の概要

- (1) 研究施設に向けた予算の動向
- (2) 大学における予算の概況
- (3) 大学における施設整備予算の状況

3

(1) 研究施設に向けた予算の動向

- 研究や科学への公共投資は、歴史的には、政治主導の下で、2007年頃に大幅に増加。
- その後、財政規律がより重視されたため2010年頃に40%削減。
- このため、財政当局等に対して研究や科学のもたらす様々な利益(生産性向上への寄与など)について、既往の学術論文等を根拠として説明を実施。
- その結果、2014年以降の予算では、研究や科学等に向けてのCapital予算は、2010年以前の水準まで回復。
- 今後の研究施設へのCapital予算については、2015年から2021年までの間に59億ポンドを投資(約11億ポンド/年)。
- 研究費、人件費等のResource予算は、2010年以降年間46億ポンドで維持されている。

4

(2) 大学における予算の概況

- Capital予算を含む大学全体の予算については、2010年頃に削減されるが、2014年には2010年以前の水準に回復。
- 2010年頃の時期から、各大学においては教職員数を増やすことに慎重になっている。これは、財政当局が大学の健全な財政運営を求め、教職員給与や年金の増加を望まないため。
- ここ数年は、Capital予算の中で、Capital for Teachingとして維持管理に充てる予算が減少している。これは、それまでの過去5年間に維持管理予算を潤沢に確保できたことが理由。
- 一方で、Capital for ScienceとしてBig Projectに充てる予算が増加している。
- また、マッチングファンドを活用した、国策としての特定研究分野ごとの拠点大学づくり、そのためのCapital予算の拡充などが進められている。

5

(3) 大学における施設整備予算の状況

- 大学施設は、公共施設の中で唯一、継続的な予算の増加が認められてきた施設である。
- 大学の施設整備予算については、HEFCEから配分される予算(Block Funding)に加え、Research Councilが所管するCapital予算(研究分野ごとに選定が行われる予算)や、銀行からの借入れ等がある。
- 1980年代から90年代にかけて大幅な入学定員の増加が行われ、30年サイクルの施設整備が困難になったことから、約10年前くらいから巨額の投資が行われた。
- 大学が予算を獲得していく上で課題となることは、多額の授業料を納付する留学生を増やすことと、大学のExcellenceを維持すること。

6

3. 各大学における教育研究環境の状況

◆訪問期間

平成28年1月19日(火)
～1月22日(金)

◆訪問先

- ・ユニヴァーシティ・カレッジ・ロンドン
- ・キングス・カレッジ・ロンドン
- ・ウォーリック大学
- ・マンチェスター大学
- ・シェフィールド大学



◆調査内容

- (1) 学修スペース充実の背景
- (2) 学修スペースの概況
- (3) 学修スペースの運営体制

7

I 総論

(1) 学修スペース充実の背景

- 従来より学修スペースの重要性は認識していたものの、充実が図られず、学生には満足度の低いスペースであった。
- 学生がより勉学に励むことができるよう、また、学生の満足度向上のため、ここ10年程は学修スペースの整備に投資。
- また、海外からの留学生獲得のため、学生に魅力的な学修スペースを整備。

(2) 学修スペースの概況

- 近年、ラーニング・コモンズを含め学修スペースの計画的な整備が図られている。
- 図書館については、ITセンターとしての機能も加えた、総合的な学修スペースとして強化が図られている。

8

(3) 学修スペースの運営体制

- 従来の図書館スタッフに加え、PCの技術スタッフ、生活面も支援する学生スタッフなど、様々な分野のスタッフが融合した形で運営されている。
- 一部で週7日24時間体制が導入されるなど、より手厚い学生支援の取組が進んでいる。
- 学生へのきめ細やかなサポートのため、複数の役割を担えるよう、スタッフ教育に力を入れている。

II 各論

以下に、各大学ごとの状況を示す。

9

Cruciform Hub (2013年6月改修、840㎡、100席の学修スペース)

ポイント

- 医学部の歴史や研究資源を継承しつつ、改修により学修環境を整備。
- ディスカッション等をしながら学習できるグループワークエリアと個別学習エリアにセグメント分けしたラーニング・commonsを整備。
- PC用のコンセントや、ディスプレイを備えた机を設置。ノート型PCの貸し出しもを行っている。また、受付カウンターは24時間オープン。



◀グループ学習エリア。個別学習エリア(奥)とは床の色を変えて識別できるようにしている。



▲PCを備えた個別学習エリア。壁(手前)には、臓器の標本が展示されている。



▲グループ学習室。PCが使えるようコンセント付き。



▲ノート型PCの保管庫。貸出しを行っている。

Somerset House East Wing (2015年冬改修、地下2階に学修スペースを整備)

ポイント

- 近年購入した建物の文化財遺構を活用し、内部改修により学修環境を整備。
- 可動式の什器を備えた、フレキシブルに使用できる学修スペースを整備。講義等にも使用できる。
- 地下2階ではあるが、自然光を取り入れた改修を行い、閉塞感を軽減。



▲建物地下に整備された学修スペース。

講義等にも使用できる比較的小さい学修スペースを整備。市民開放も行っている。



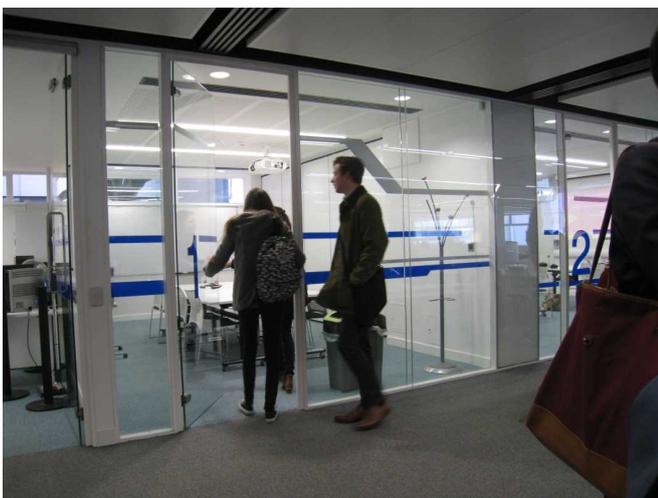
Learning Grid、Teaching Grid (2004年完成)

ポイント

- 学修スペースを学部生、院生それぞれ専用エリア分けして整備。それぞれ、階別として、専属の担当を置いて学生を支援(英国では初めて)。学生のニーズに応え、個別学習スペースを300席整備。
- 教員の居場所となるティーチング・グリッドを整備。教授法などの書籍が用意されており、模擬授業などが行える。教員同士の交流空間も整備。



▶ラーニング・グリッドの個別学習スペース。学生寮に近く、大学内で最も混み合う場所の1つ。



▲ラーニング・グリッド内のグループ学習室。プロジェクターなどのICT機器が設置されている。



▲ティーチング・グリッド内の諸室。授業等に用いる映像の編集などができる。



▲ラーニング・グリッド内の院生用のエリア。院生と学部生をエリア分けすることで、帰属意識を高めている。



▲ティーチング・グリッド内の個別スペース。奥の書棚には教授法に関する書籍などが用意されている。



▲ティーチング・グリッド内の研究者向けのコミュニティスペース。

The Alan Gilbert Learning Commons (2012年4月完成、5,500㎡)

ポイント

- 既存施設(学生寮の食堂部分)を改修するとともに、一部増築して、新たな学修環境を整備。整備に当たっては、積極的に学生の意見を取り入れた。また、学生の多くを運営スタッフとして登用。
- 既存施設(大スパン)を活かし、遠くまで見渡せる開放感のある広い学修スペースを整備。



▲ラーニング・コムズ。大スパンのため、遠くまで見渡せる広い16学修スペースとなっている。ルールはないが、静寂性を保っている。



▲グループ学習室。建物内に、30部屋整備されている。



◀学生のリラックスマシン。



▲プリンタやコピー機が集められた一画。各フロアに1箇所設けられている。

The Diamond (2015年9月完成)

ポイント

- 手狭になった工学部エリアから工学部学部部分を抜き出し、講義室・実習スペースを新たに整備。異学科合同の授業にも対応できるよう、大規模な実習スペースを整備(実務を身に付けるための実習用最新機材がそろっている)。
- 実習スペースはガラス壁であり、それぞれの実習スペースからお互いの実験している様子が見えるため、学習意欲が向上。
- 6階建ての建物内には、実習スペースのほか、レクチャーシアターやセミナールーム、図書館(PCエリア含む)、カフェ等を整備。



異なる学科が合同で実習できる大規模な実習スペース。



▲それぞれの実習スペースは、ガラス越しにお互いの実験している様子を見ることができる。



▲レクチャーシアター。教員の手元がよく見えるよう、また、声がよく聞こえるように工夫されている。400席。



▶ The Diamond内に整備された学修スペース